

# ■演題：自動車産業におけるDXの推進の課題と経営戦略：

## CASEなど新時代における事業構造と産業構造の変革

■日時：2021年3月4日（木）15：00～16：00

■講師：南山大学 理工学部 ソフトウェア工学科 教授 青山 幹雄氏

■略歴：1980年岡山大学大学院工学研究科修士課程修了。同年富士通(株)入社。大規模通信ソフトウェアの開発と開発管理に従事。この間、1986-88年米国イリノイ大学客員研究員。1995年4月-2001年3月新潟工科大学情報電子工学科教授。2001年4月より現職。博士(工学)。ソフトウェア工学、要求工学、自動車ソフトウェア工学、機械学習ソフトウェア工学の研究と教育に従事。情報処理学会理事などを歴任。IEEE RE(International Requirements Engineering Conference)の共同議長をはじめ多くの国際会議の運営に従事。2018年経済産業省「デジタルトランスフォーメーションにむけた研究会」座長。2020年経済産業省「デジタルトランスフォーメーションの加速に向けた研究会」座長。

### ■概要：

本講演では、経営者の皆様が自動車部品産業におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)について理解され、経営課題を明らかにし、DX推進のリーダーとして経営戦略を策定するための指針について解説する。

自動車産業ではCASEのキーワードでクルマを中心にした変革が進行している。しかし、社会全体におけるDXの推進に対応するためには、1)自動車ならびに、その部品のデジタル化に加え、2)製品の企画から製造、販売、保守に至る事業全体のデジタル化、さらには、3)事業モデルのデジタル化の3つの軸でDXを理解し、推進する必要がある。

これによって、自動車部品産業がOEMを通してB2B2Cとして顧客とのデジタルな接点を確立し、それに基づく新たな部品の提供や保守の再検討が期待される。さらに、システム化された部品では、その提供価値はデジタル技術とそれを利用するソフトウェア技術により決まる。このためソフトウェア工学を活用し、ソフトウェアアーキテクチャの確立とそれを実装したソフトウェアプラットフォームの確立が必要となる。さらに、多様な仕様のソフトウェアを一括して短期間に企画、開発するプロダクトライン開発やアジャイル開発などの技術の活用も求められる。すでに、欧州では7年前からこのようなテーマでOEMと自動車部品サプライヤが中心となった国際会議も開催されている。これに対して、わが国では、特にソフトウェア技術が立ち後れている。このような状況を打開し、自動車部品産業におけるDXを推進するための経営課題、経営戦略について事例を交えて紹介する。

